

異文化知識・対応能力に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



VALUE ルーブリックは、全米の大学を代表する専門教職員が、学習の成果に関する各大学のルーブリックや関連文書を調査し、教職員からのフィードバックを参考にして作成されたものである。このルーブリックは、段階的達成レベルを示す能力指標により、各学習成果の原則的な基準を示すものである。このルーブリックは、各大学が学生の学習を評価し考察する目的で使用されるものであり、成績をつけるために使用するものではない。この 15 の VALUE ルーブリックに示された学生に期待される能力に関しては、各大学、専門分野、コースに応じて、それぞれの解釈が可能である。VALUE ルーブリックは、学生の成果に関し共通の手段と理解を共有することで、すべての学部レベルの機関での学生の学習を、一つの基本的な期待レベルの枠組みの中で位置づけるためのものである。

定義

異文化知識・対応能力とは、「様々な文化的背景を持つ人々との効果的かつ適切な交流・関わりを可能にする一連の認識・情緒的・行動的能力及び特性」である。(出典 Bennett, J. M. 2008. Transformative training: Designing programs for culture learning. In Contemporary leadership and intercultural competence: Understanding and utilizing cultural diversity to build successful organizations, ed. M. A. Moodian, 95-110. Thousand Oaks, CA: Sage.)

概要

異文化知識・対応能力を教育の中心に組み込むべきだという声は、我々がグローバル・コミュニティーの一員であるという認識を持つことで必須条件として浮かび上がったものであり、また、我々は皆同じ将来を迎えるという認識にも基づいている。異なる人々が単に触れ合う場というだけではなく、共同体としての大学は、意味のある形で異文化の人々を参加させ、文化を変容的学習の中心に据える能力を持っていなければならない。異文化知識・対応能力ルーブリックは、我々の自己の文化的パターンを認識する能力、そのパターンを比較対照する能力、慣れ親しんでいないものの在り方に感情移入して柔軟に順応する能力を測るための、系統的なシステムとして提案するものである。

このルーブリックのレベルは、部分的に M. Bennett 氏の「異文化感受性発達モデル (Developmental Model of Intercultural Sensitivity)」を参考に行っている。(Bennett, M.J. 1993. Towards ethnorelativism: A developmental model of intercultural sensitivity. In Education for the intercultural experience, ed. R. M. Paige, 22-71. Yarmouth, ME: Intercultural Press を参照されたい。) また、このルーブリックの基準は、部分的に、初の学術研究に基づく異文化対応能力の合意モデルである、D.K. Deardorff 氏の異文化枠組みを参考に行っている。(Deardorff, D.K. 2006. The identification and assessment of intercultural competence as a student outcome of internationalization. Journal of Studies in International Education 10(3): 241-266 を参照されたい。) 更に、異文化知識・対応能力は、このルーブリックに反映されている内容より、一段と複雑であるということを理解していただくことが重要である。このルーブリックでは、主要な異文化知識・対応能力構成要素のうち、六つの構成要素を使用しているが、Deardorff モデルやその他の研究で特定されているとおり、その他の構成要素も存在する。

異文化知識・対応能力に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



用語

下記は、このルーブリックにのみ適用される用語と概念の定義である。

文化	一つの集団で共有される全ての知識・価値観
文化的ルール・偏見	一つの社会・集団に属していると感じるために、その社会・集団の共通価値観に基づき、個々が行動・思考する範囲
感情移入	「感情移入とは、（相手の立場を推測するのではなく）他者の視点を想像することにより、想像を通して他者の体験に感情と知性の両面から参加することである」。（出典 Bennett, J. 1998. Transition shock: Putting culture shock in perspective. In <i>Basic concepts of intercultural communication</i> , ed. M. Bennett, 215-224. Yarmouth, ME: Intercultural Press)
異文化間・文化の違い	自己の文化とは異なる文化的価値観に基づく、ルールや行動様式、コミュニケーション方法、偏見内容の違い。
異なる文化を持つ人々との関わりの内容の評価に関する判断を保留する	自分と異なる文化を持つ人々との関わりの内容に関する価値付け・評価を（肯定的であれ否定的であれ）する際に、すぐに判断せず、少し時間をおく。機械的な判断プロセスから自己を切り離し、関わりの内容が含まれているかもしれない複数の意味について考える時間を持つこと。
世界観	人々が自己の経験を理解し、自分の周りの世界の意味付けをする際に使用する認知的・情緒的視点

異文化知識・対応能力に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



定義

異文化知識・対応能力とは、「様々な文化的背景を持つ人々との効果的かつ適切な交流・関わりを可能にする一連の認識・情緒的・行動的能力及び特性」である。(出典 Bennett, J. M. 2008. Transformative training: Designing programs for culture learning. In Contemporary leadership and intercultural competence: Understanding and utilizing cultural diversity to build successful organizations, ed. M. A. Moodian, 95-110. Thousand Oaks, CA: Sage.)

単独の課題、または複数の課題を総合して、ベンチマーク（基準 1）に達しない場合は、0点と採点することを推奨する。

	最終基準	中間基準		ベンチマーク
	4	3	2	1
知識 文化的な自己認識	自己の文化的ルールや偏見について明確に知見を述べることができる（例えば、その複雑な成り立ちを深く掘り下げようとしている）。そのルールがどのように自己の経験によって形成されたか認識しており、文化的な偏見にどのように気づき、対応すればよいかわかっており、その結果自分に関して話すときの表現に変化が生まれた。	自己の文化的ルールや偏見についての新しい視点を認識している（例えば、同じであることを求めておらず、新しい視点によってもたらされた複雑な見方を受け入れている）。	自己の文化的ルールや偏見を見分けている（例えば、見分けた上で、その自己の文化集団共通のルールが使用されることを強く望んでおり、他者にもそのルールを守ってほしいと思っている）。	自己の文化的ルールや偏見をほとんど認識していない（自己の文化集団の共通のルールや偏見でさえほとんど認識していない）。（例えば、他者との文化的違いを識別することに抵抗を感じる。）
知識 文化的な世界観の枠組みに関する知識	その文化圏の歴史、価値観、政治、コミュニケーション方法、経済、考え方、習慣的行動に関連して、異なる文化を持つ人にとって重要である様々な要素の複雑さに関する高度な知識を持っている。	その文化圏の歴史、価値観、政治、コミュニケーション方法、経済、考え方、習慣的行動に関連して、異なる文化を持つ人にとって重要である様々な要素の複雑さに関する適切な知識を持っている。	その文化圏の歴史、価値観、政治、コミュニケーション方法、経済、考え方、習慣的行動に関連して、異なる文化を持つ人にとって重要である様々な要素の複雑さに関する部分的な知識を持っている。	その文化圏の歴史、価値観、政治、コミュニケーション方法、経済、考え方、習慣的行動に関連して、異なる文化を持つ人にとって重要である様々な要素の複雑さに関する表面的な知識を持っている。
能力 感情移入	異文化間経験を自己の世界観と、二つ以上の別の世界観の視点で解釈する。異なる文化集団に属する人々の気持ちを認識し、相手を支持するような行動を取ることができる。	二つ以上の世界観の理性的・感情的側面を認識しており、他者と関わる中で、時々二つ以上の世界観を用いる。	異文化視点の構成要素を識別できるが、どのような状況においても自己の世界観に基づいて対応する。	他者の経験について考えることはするが、その際、自己の世界観を用いる。

異文化知識・対応能力に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



<p>能力 言語及び非言語コミュニケーション</p>	<p>言語及び非言語コミュニケーションに関する文化的な違いについて複合的に理解しており、明確に述べるができる(コミュニケーションをする際に、各文化がどの程度スキンシップを用いるか、また、直接的・非直接的表現、及び明白・曖昧な表現を用いるかを理解している等)。また、その違いの認識に基づき、うまく交渉して共通の理解を得ることができる。</p>	<p>言語及び非言語コミュニケーションに関する文化的な違いを認識し、行動に取り入れており、その違いの認識に基づき、共通の理解を得るために交渉を始める。</p>	<p>言語及び非言語コミュニケーションに関する文化的な違いをいくつか認識しており、そのような違いにより誤解が生じる場合もあることも認識しているが、共通の理解を得るように交渉することができない。</p>	<p>言語及び非言語コミュニケーションに関する文化的な違いをほとんど認識しておらず、共通の理解を得るように交渉することができない。</p>
<p>姿勢 好奇心</p>	<p>異なる文化に関し、複雑な疑問を持っている。また、それらの疑問に対する、複数の文化的視点を反映する答えを探索し、得た答えを明確に述べるができる。</p>	<p>異なる文化に関し、より深い疑問を持っており、その答えを探索する。</p>	<p>異なる文化に関し、単純な、あるいは表面的な疑問を持っている。</p>	<p>異なる文化について学ぶことにほとんど興味を示さない。</p>
<p>姿勢 寛容性</p>	<p>異なる文化を持つ人々と自発的に関わり、その関わりを発展させる。自分と異なる文化の人々との関わりに対して判断を保留にし、少し時間をおく。</p>	<p>異なる文化を持つ人々と自発的に関わり始め、その関わりを発展させ始めている。自分と異なる文化の人々との関わりに対して判断を保留にし、少し時間をおき始めている。</p>	<p>すべてではないが、ほとんどの異なる文化の人々との関わりを持つことを受け入れるが、自分と異なる文化を持つ人々との関わりに対して判断を保留にすることができず、自分自身の判断を認識し、変えることに対して抵抗がないことを表明している。</p>	<p>異なる文化を持つ人々との関わりを受け入れる。自分と異なる文化を持つ人々との関わりに対して判断を保留にすることができず、自分自身の判断を認識していない。</p>